



No. 05 / 生産者と消費者をつなぐ

関係人口創出部門 渡邊 夏鈴 さん

「大学で観光を学んでいくうちに、地方の魅力を伝えるためには、まず自分で感じないといけないと思いました。」
そう話してくれた渡邊さんは、東京都内の大学で観光やホスピタリティ(おもてなし、思いやり)の勉強を学んだのち、令和6年4月より国見町に移住し、地域おこし協力隊の関係人口創出部門として、地域資源を活用した事業に従事している。
大学時代に2週間の地域おこし協力隊インターンで国見町を訪れ、農家さんの思いや地域資源の魅力に触れ、「もつと国見町のことを知りたい。大学で学んだことを活かせるのではないか」と思ったとのこと。
現在は、令和4年度まで地域おこし協力隊に在籍していた岡野希春さんと、果物の木オーナー制度をはじめとした、町内の農家や事業者と消費者をつなぐ事業を展開している。
「地域資源を活用し、国見町を選んでもらうきっかけを作ること、より多くの人に国見町の魅力を感じてもらいたい」と話す渡邊さん。その姿は、地域の未来を切り拓く力強さに満ちている。



Future: ミライのハナシ —私がこの町でやりたいこと—



持続可能な観光商品を開発し、みんなが活躍するまちに！

今の課題は、集客力と協力していただける農家さんや事業者が少ないことです。ご興味・ご協力していただける方は、ぜひご連絡ください！



▲活動内容はコチラ

No. 03 / 関係人口創出部門 伊藤 愛 さん

誰もが「クリエイター」に

地域おこし協力隊として着任して2年目を迎える伊藤さん。幼少期からものづくりが好きだった伊藤さんは、大学卒業後、県内のタウン誌の編集部勤務、雑誌制作に携わった。また、大学で農業に触れた経験がきっかけで、宮城県白石市で友人と農業を始め、合同会社を設立。農業デザイナーとして活動。その後、SNSで国見町の地域おこし協力隊の募集を知り、「デザイナーのスキルで地域に貢献できる」と感じ応募。初年度は、町のPRを目的とした印刷物の制作に注力し、今年度はクラフトやアートのワークショップを開催している。
「ものづくりは、ハードルが高いイメージがありますが、やってみると意外とできるような感じが、自信に繋がります」と話し、誰もが気軽に作り手になれる場の提供を目指している。また、国見町には、若者同士が交流できる場が少ないと話し、若者が週末に集える拠点づくりに取り組むたいという熱い思いを抱いている。地域に新たな風を吹き込む伊藤さんの挑戦は続く。



Future: ミライのハナシ —私がこの町でやりたいこと—



誰もが気軽に「作り手」になれる場を提供したい！

週末に楽しめるワークショップの拠点を作り、任期終了後も機会を提供し続けたいです。



▲活動内容はコチラ

No. 06 / 近い距離感で教育できる楽しさ

放課後塾ハル 濱村 和生 さん

国見町は、子どもたちの学力向上や探究力の習得を目指して、3年前に「放課後塾ハル」という公営塾をスタート。当初は中学生のみで、現在は小学生も通えるようになっていく。
全国的にも数少ない公営塾で、私塾と学校の間のような教育に携わりたいと思い、地域おこし協力隊として放課後塾ハルの講師となった濱村さん。講師の鈴木涼太さんと二人で運営している。今年度は「学びの苦手を楽しいに変換」をテーマに、各教科をゲーム形式や対戦形式で出題するなどして学習をサポート。「最初は無理と言っていた生徒がやってみようかなに変わり、最後はやってみてほしいに変わったんです」と、成長を身近で見られてうれしそうに話す濱村さん。また、探究コースでは、子どもたちが考案した町の新名物が、町内事業者の協力のもと完成することに。3月9日の「クニミノホマレ」というイベントで初お披露目と販売会が予定されている。
子どもたちの可能性を広げ、「学ぶことへの自走」を作り出すため、濱村さんはこれからも走り続ける。



Future: ミライのハナシ —私がこの町でやりたいこと—



小学生から高校生が探究できるまちに！

放課後塾ハルには小学部と中学部がありますが、高等部がありません。高校がないこの町だからこそ、高校生が探究できる機会を作っていければと思っています。



▲活動内容はコチラ

No. 04 / 芸術で広がる世界、選べる未来に

関係人口創出部門 原田 つむぎ さん



日本大学芸術学部演劇学科を卒業後、2つの劇団に所属し、舞台俳優と衣装家として東京都を中心に活動する原田さん。祖父が町内在住で幼い頃から何度も国見町を訪れていた。国見町のオープンな雰囲気と惹かれ、令和5年4月に移住し、地域おこし協力隊として2年目を迎える。
昨年度から、SNSで町の魅力を発信する企画「ふたつの空と、いくつもの私と」を開始。今年度は藤田商店街の空き店舗を借りて、芸術と交流の場を開くための準備中。そこを拠点とした演劇部を創設させ、15名のメンバーと共に1年後の公演を目指している。
原田さんが大学進学で上京した際、地方と都市部での情報や体験の格差を痛感したという。「都市部には、さまざまなバックグラウンドやアイデンティティを持った人と触れる機会が多く、情報も選択肢も多い。幼少期から触れていたなら、違う道に進んでいたのかもしれない」と実体験を話した。「演劇の分野に限らず、私が町内で活動すること、いままでなかった選択肢を皆さんに提供できればと思っています」と話し、多くの人々が新たな体験を共有できる未来を描いている。

Future: ミライのハナシ —私がこの町でやりたいこと—



芸術を身近に感じられる場所を作りたい！

最近、藤田商店街の空き店舗を借りました。下水道や電気設備など、ハード面の課題はありますが、ここを拠点に、演劇をはじめさまざまな芸術を皆さんに提供できればと思っています。



▲活動内容はコチラ